

皮膚科のトリビア

202

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●第37回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会から

令和3年4月25日

患者報告アウトカムとは

さまざまな皮膚疾患の現状把握と治療効果の評価には、標準化された指標を用いることが臨床研究だけでなく日常診療においても重要である。医師による客観的な評価指標のほか、最近は患者自身による主観的な評価(patient reported outcome: PRO)が重要視されている。慢性特発性蕁麻疹はUCT(urucaria control test)の導入で疾患活動性と治療効果の評価が容易になった。アトピー性皮膚炎ではADCT(atopic dermatitis control tool)がPROとしての意義が高く、今後広まっていく見込みである。

一言コメント

「ADCTは公式サイト(<https://www.adcontroltool.com/>)から、各国語の質問票のダウンロードが可能である。アトピー性皮膚炎の患者にさっそく使わせてもらっている。」

●日本皮膚科学会第896回東京地方会から

令和3年5月15日

外陰部の腺腫は乳腺様組織から生じる

30歳代女性。外陰部の小結節で来院。病理組織学的にはhidradenoma papilliferum。腫瘍細胞はER(エストロゲンリセプター)・PgR(プロゲステロンリセプター)陽性。anogenital mammary-like

glands (AGMLG)由来の腫瘍と考えた。AGMLGは陰唇間溝、大陰唇内側、会陰部、肛周に分布する正常組織で、単純な腺構造から複雑な小葉構造まで多様な構造をとる。ERとPgRがともに陽性。extramammary Paget diseaseのほか、腺癌の発生源地にもなる。

一言コメント

「初めて聞いた。外陰部のPagetはアポクリン腺由来だと思っていたが、全部ではないらしい。」

●日本皮膚科学会第896回東京地方会から

令和3年5月15日

アダリムマブによる逆説的化膿性汗腺炎

20歳代女性。潰瘍性大腸炎に対しアダリムマブを継続使用中。28カ月後に臀部、下肢に膿瘍が出現。化膿性汗腺炎と診断した。2016年以降、関節リウマチ、Crohn病、乾癬への使用例で逆説的反応として出現した化膿性汗腺炎の報告が100例ほど報告されている。投与開始から発症までは12カ月から28カ月、重症例は比較的少なくHurley IないしIIがほとんどだった。

一言コメント

「自身で使うことがないので印象に残っていないが、抗TNF製剤の治療中に生じる、抗TNF製剤が治療選択肢となる疾患についてはこれまでもいろいろと報告されているようだ。どこでどのようにつながっているのか、不思議な感じである。」

●某製薬会社主催Web講演会

令和3年5月25日

短期暑熱順化と長期暑熱順化

暑さに慣れるとはどういう仕組みなのかという話。暑熱順化は獲得期間や発汗機能の違いにより、短期暑熱順化と長期暑熱順化に分類される。前者は季節の変わり目や運動によりおこるもので、1日数時間の暑熱負荷が7～10日間加わることで、発汗機能が亢進する。日本人は夏季になれば自然に順化を獲得する。一方、長期暑熱順化は、熱帯に住む人や長期運動鍛錬者においては、長期間暑熱環境に曝されているので、通年的に発汗機能が減退している。

一言コメント

「体重70 kgの人が1℃の体温上昇を防ぐには100 mLの汗をかくことが必要とのこと。計算式は以下の通り。水の気化熱 = 0.58 kcal, 100 mLの気化熱は58 kcal, 人体の比熱 = 0.83, 熱量量は0.83×70で58.1 kcal。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月11日

喫煙とIL-36

掌蹠膿疱症(palmoplantar pustulosis : PPP)は喫煙者に多い。扁桃上皮細胞とケラチノサイトをタバコ煙抽出物で刺激すると、それぞれの細胞からIL-36の産生が誘導された。またPPPの患者の扁桃組織ではIL-36が高発現していること、細菌感染が生じると扁桃上皮細胞がIL-36を産生することが示されていて、喫煙や扁桃炎によってPPPが悪化する病態にIL-36が関連する可能性が示唆された。

一言コメント

「喫煙が関連する慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease : COPD)においても、肺マクロファージからのIL-36産生が亢進しているという報告もある。IL-36はいずれの病態とも関連がありそうだ。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

亜鉛の投与で蜂窩織炎の再発を予防する

細菌感染では血清亜鉛値が低下し、その補給が治療の1つとして有効であるとの報告がある。40例(平均年齢75歳, 男女比1:2)の蜂窩織炎患者で、WBC, CRPに加えて血清亜鉛値を測定し、相関を求めた。血清亜鉛値の平均は52.1 (24~81) $\mu\text{g/dL}$ でCRPとWBCに負の相関を示した。再発例に対して新たに亜鉛製剤を投与したところ、1カ月以上再燃を認めなかった。亜鉛製剤の内服で蜂窩織炎の再発が予防できる可能性がある。

一言コメント

「開口部の亜鉛欠乏症は別だが、それ以外の亜鉛欠乏を疑う皮膚疾患については何が常識なのかが今一つ整理できていない。治療として用いるときも確信をもって処方しているわけではない。実臨床での経験がさらに必要だろう。」

●第120回日本皮膚科学会総会から

令和3年6月12日

Wood灯が薬機で承認された?

2019年6月にセラビーム®Woodyが検査用医療機器として、薬機に承認され発売された。以前からWood灯は紅色陰癬, *M.canis*感染症, 白斑で有用なツールである。とくに白斑では、局面内に残存する毛孔性の色素の有無や境界部のパターンを確認するのに有用で、安定したツールを用いることによって、疾患活動性や治療反応性を評価できるようになるかもしれない。

一言コメント

「これは知らなかった。価格は聞いていないが、現時点では検査料は請求できない。ダーモスコピーと同様の検査料が保険適用になるとよいと思った。」